

第2回つくば市行政経営懇談会会議要旨

議事（1）令和元年度（2019年度）つくば市市民参加取組状況報告について

1. 資料1の内容に関する質問

	意見	回答
1	P3 市民参加の主な取組の実施件数等について 市民参加の取組を実施した事業数は64件とあるが、P4のグラフ3の延べ件数と合わない。どのような計算になっているか。	◇事務局 64件は取組を実施した事業の数であり、P4のグラフ3、4は64の各事業の中で実施された取組の件数である。
2	P3 市民参加の主な取組の実施件数等について 出前講座は市の職員が市民に説明をする取組だと思うが、それも市民参加の取組になるのか。	◇事務局 市民が市に依頼をし、市の職員が事業等の説明を行うという点で、「共有、理解」に深く関わる市民参加の手法であるととらえている。
3	P3 市民参加の主な取組の実施件数等について グラフ1に「その他」にはどのような取組が含まれるのか。	◇事務局 企画経営課で実施した未来構想等キャラバンという意見交換会や都市計画課で実施した市の都市計画を学ぶバスツアー等が含まれている。
4	P5 パブリックコメント手続きの実施について パブリックコメントの13件への意見提出というのは、市で13の項目に分けて、それぞれで提出いただいているものなのか。	◇事務局 パブリックコメントは、計画等ごとに計画を担当している部署が実施する時期を決めて、意見を募集している。

2. 効果的であると考えられること

	分野	意見
1	①情報の積極的な発信	指針等も策定され、情報の開示も良くなっていると思う。実際に参加する、しないは別として、体制は整っていると感じる。
2	①情報の積極的な発信	市としてはとても頑張っていて、いろいろな人に市政参加を求めようとする行動をしていると思う。
3	①情報の積極的な反映	「市民参加」という項目でホームページがまとめられており、情報提供がされているという印象を受けた。 審議会等の市民委員についても、ほぼ可能なものは入れられていると思う。また、参加ができない場合もその理由が示されている。
4	②参加しやすい環境づくり	いろいろな手法を用いている。以前はなかった手法もあるのでいいと思う。

5	②参加しやすい環境づくり	125人の意見を拾ったということは大きいと思う。意見交換等に参加するには時間が合わない、大勢の前では意見が言えないという人もいると思うので、ある程度の期間の中で自分の考えを市に伝える手段があることはとてもいいことだと思う。
6	②参加しやすい環境づくり	電子申請による意見提出が多かったことに驚く。より幅広い層、若い人たちも自分の意見を提出できるようになったのではないかと思う。
7	③市民意見の積極的な反映	実際に会議に参加した市民の手ごたえや感想、今後の展開を考えてもらう機会を作ったことについて、貴重な意見がたくさんあったのではないか、と思う。参加した人に振返りをさせていただく機会はこれからも続けてほしい。

3. 改善が必要であると考えられること

	分野	意見
1	①情報の積極的な発信	関心がない、あるいは関心がないとは言わないけれど、そこまで積極的に情報を探しに行かないという人には届いていないと思う。
2	①情報の積極的な発信	興味がないと目につかない。どれだけこちらから情報を出しても、相手を取る意思がなければ、絶対には取らないと思う。
3	①情報の積極的な発信	これだけいろいろな取組を行っていても、やっていることが自分には伝わってこないということが率直な意見。
4	①情報の積極的な発信	せっかく行われている取組を知られていないということは問題だと思う。
5	①情報の積極的な発信	若い世代の注目をどのように集めていくかということは、今後検討していくべきことのひとつなのかなと考える。
6	①情報の積極的な発信 ②参加しやすい環境づくり	P8のグラフ7にもあるように、地区で応募者数が異なっており、市の中心部と周辺部とでは情報格差があると言えると思う。
7	②参加しやすい環境づくり	30歳代から40歳代で勤務している市民は忙しく、参加する時間は限られる。若い世代に意見を求めるのであれば、教育、子育て、親の介護が関心のあるテーマではないか。
8	②参加しやすい環境づくり	審議会等の市民委員の応募者数については、履歴書や小論文の提出、面接等、ハードルが高いと思う。相当時間がある人でなければ、なかなか応募しないと思う。
9	②参加しやすい環境づくり	審議会等については、専門性が高いような内容が多いので、それに馴染んでいなければ、理解がなかなか難しい。
10	③市民意見の積極的な反映	私も何度か意見を提出したことがあるが、意見に対する回答が「検討します」や「今回の計画の内容と異なるため検討しません」というように冷たかった。

議事（２）つくば市市民参加推進に関する取組の課題について

1. 自治基本条例ワークショップについて（委員資料提供）

	説明内容
1	<p>つくば市自治基本条例の策定を検討するワーキングチームにいた際に、市民の意見を集めたい、というときがあった。今から10年ぐらい前。どうやって参加者を集めるか悩んで、何をやったかという、テクノパーク桜のお祭りのプログラムに自治基本条例のワークショップを開いた。お祭りで、今からワークショップやります、参加者にボックスティッシュ1箱差し上げますという形で参加を呼びかけたところ、参加予定人数を大幅に超えた。</p> <p>ハードルが高い、わざわざ行くのも、どうしても仕事があるとなかなか行けない、そういう場合、市の方から地域のイベントに参加して、そこにいる人の意見を聞くという手法があってもいいのではないか。この資料は、いかにハードルを下げるかという一つの例として持ってきた。</p>

2. 資料2の内容に関する質問

	意見	回答
1	<p>P15 無作為抽出による委員等候補者名簿の活用について 候補者100人から1人選ぶときには具体的にどのようなプロセスで選任するのか。</p>	<p>◇事務局 候補者名簿の上から順に連絡を取り、同意いただいた方を任命又は選任している。</p>
2	<p>1の回答に対して お声がけして、ちょっとこれは無理じゃないかというような場合に、こちらから断るということはあり得るのか。</p>	<p>◇事務局 実施回数は少ないが、これまでにお断りした事例はない。</p>
3	<p>P16 市民参加に関するアンケートの実施結果 調査対象である「つくば市未来構想ワークショップ参加者」について、このワークショップは具体的にどういったことを行ったのか。</p>	<p>◇事務局 未来構想は市の最上位計画であり、H30年とR1年度にかけて作成した。ワークショップはH30年度に実施した。公募による参加者に市の現状を把握していただき、将来つくば市はこうなったらいいということを思い描いていただき、実現のためにどういった障害が今あるかとか等を、話し合っていた。その中で出た意見を未来構想に反映した。</p>
4	<p>3の回答に対して シリーズ化すると、こういうことに参加してみたら面白かったよ、と話題にできそうだが、1回だけではなく、何回か続ける予定はあるか。</p>	<p>◇事務局 未来構想の策定自体は終了したため、未来構想のワークショップという形で開催するという予定はないが、このワークショップは同じメンバーで、</p>

	複数回続けて実施した。そういった手法は、今後も様々なテーマで実施できると考えている。
--	--

3. 令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会で協議する「課題」について

	分野	意見
1	①情報の積極的な発信	新聞や回覧板などの印刷物であれば、読みたくなくても目に飛び込んでくる情報があったと思う。デジタル化すると、自分で探しに行けば情報があるが、意識しないと目に飛び込んでこない。特に若い人はあまり新聞を取らない。今までとは違う形で情報を提示していくことが必要。
2	③市民意見の積極的な反映	<p>市政に参加できる機会が与えられていることを知らないというところに原因があると思う。そういう文脈でいうと、無作為抽出はもっと推進されていいと思う。裁判員裁判も無作為抽出だが、自分からは積極的には行かないけれど、求められれば言う、と言いたいことがあるという人は、かなりの数いるはずだと思う。ましてや、裁判なんて全然関係ないことだが、市政は自分たちの生活に直結することでもあるので、もっと活用していければいい。</p> <p>無作為で全部やるとなると、ある程度のフィルタリングはどうしても必要だと思うが、無作為抽出をもっと推進してもいいのかなと。</p>
3	③市民意見の積極的な反映	市民参加には市民が来ることを待っているような、待ちの姿勢のイメージを受ける。各地区に窓口センターもあるが、人事異動で人が変わるとコミュニケーションが取れていない。
4	④その他	市民意識調査で、市政に参加できる環境が整っているかわからないと答えた20歳代から40歳代までの人の割合が高いということ、市に伝えたい意見がないという回答割合が上位という結果がまさにそのものの問題だと思う。「わからない」というのは、市の組織や人間など、市そのものがわからないということと、伝えたい意見や自分の気持ちがわからないということがあると思う。普段住んでいて、不便に思うことなどはあると思うが、それを言語化できていない。
5	④その他	20代、40代の方のわからないという回答や、市に対する意見がないということについて、市の人口は20代から40代が多いと言っていたが、もともとつくば市の人であるのかも重要かと思う。例えば柏や東京都に住んでいた人が結局前に住んでいたところに戻るとなると、何年かしか住まないつくば市はどうでもいいと思っているのかなというところもある。

4. 市民参加に関するアンケートの実施結果について

	分野	意見
1	②参加しやすい環境づくり	自分は無作為抽出で選ばれたが、名簿への登録に同意したところで当選しないだろうと思っていたので、アンケート回答結果のような参加へのハードルは特に感じていなかった。
2	②参加しやすい環境づくり	仕事を休まないと出席できないということは、自分にとってはハードルになる。早い時間の方が参加しやすい人いると思うが。
3	②参加しやすい環境づくり	市民参加をすることのハードルを想像すると、式の進行かと思う。私はベンチャー出身なので、会議と言えば、プログラミングをした後にとりあえず集まってホワイトボードに議題を書いて、集まった人たちで会議をする。ただ、大学や市の会議は式次第があり、事前資料があり、年代も上から下まで揃って行く。若者の力で行う会議と全年齢に向けた会議は違うもの。そこに参加するとなったとき、ハードルを感じる人はいると思う。
4	②参加しやすい環境づくり	ターゲットを絞るという観点から見ると、来て顔を合わせて意見を言った方が良い方もいれば、QRコードを読み込んでアンケート回答とか、Zoom 会議とか、顔を合わさずに意見を言える方が、ハードルが低いという人もいる。

5. 課題への対応案

	分野	対策案
1	①情報の積極的な発信	チラシであれば、人が多く集まる図書館等に置くことも一つの手かと思う。 また、市内大学の学生に知恵を出してもらい、一緒に宣伝するというのも面白いのではないかな。
2	①情報の積極的な発信	様々な優先課題がある中でトップページに「市民委員募集しています」、「市民参加やっています」とできないことはわかるが、何らかの方法でわかりやすく、特に若い世代にアピールできるようなやり方を考えられるといいのでは。
3	①情報の積極的な発信	周辺地区では区長を中心に活動しているため、こういった会議の内容について、区長たちを集めて情報共有するようなことも大切になってくるのではないかなと思う。各地区で区長会長をはじめ、参加する市民が少しずつ増えていくことでということ。
4	①情報の積極的な発信 ②参加しやすい環境づくり	パブリックコメントで提出された意見の数や市民委員の応募者数から、今の市民がどういうことに関心を持っているかということがわかると思う。そういうところにより多くの人が参加できるような形の取組を続けながら、いろいろな課題にシフトしていくという取組も有効かなと思う。

5	①情報の積極的な発信 ③市民意見の積極的な反映	自分の住んでいる地域がより良くなっていくことを実感すれば興味を持ち、意見を言うかもしれない。
6	①情報の積極的な発信 ③市民意見の積極的な反映	せっかく名簿を用意していて、興味関心も聴いているのであれば、別の手続きに使ってもいいのかなと。例えばパブコメとかでも、関連するものに関しては今こういうことをやっているから、意見あったらどうぞとか、市民全員に送るわけにはいかないと思うが、せっかく興味関心を持ってもらっているので、その期間に関しては、こちらから情報をプッシュして、もっと有効に活用できないかなと思う。
7	②参加しやすい環境づくり	今は出席する方に重きを置いているような気がするが。むしろ出席しなくてもいいような手法をどんどん取り入れていくと、いろいろな世代やいろいろな人の意見を聞けるのではないかな。
8	②参加しやすい環境づくり	若い世代の参加について、中学校や高校などで審議会等の経験をしてもらうなどの体験をさせない限り、広がっていかないと思う。
9	②参加しやすい環境づくり	適切な方法であるかどうかわからないが、意見を出した人に何等かの報酬を与えれば、意見が多く出てくる可能性があるのでは。地域ポイントや地域特産品を提供することはできないかな。
10	②参加しやすい環境づくり	ポイント制について、現金を配るというわけにはいかないと思うが、パブリックコメント1つ意見を言うとスタンプ1個のような、市民参加の可視化のようなものがあるのかなと思った。いや、それはいけない、税金を使うのだからという意見も当然あるとは思っている。
11	②参加しやすい環境づくり	アメリカなどのコミュニティで見ると、地域のために良いこととした人を取り上げて表彰するような取り組みをしているケースを目にしたことがある。人は金銭的な経済的なメリットで動くこともあるが、名誉ややりがいのようなもので動く面もあるため、そういうインセンティブの与え方はあるのではないかな。
12	②参加しやすい環境づくり	20歳代から40歳代の仕事を持っている人をターゲットにするならば、遅い時間にするとか、子育て世代をターゲットにするのであれば、子どもが学校や幼稚園に行っている時間にするとか。本当は全世代参加がいいが、より多くの人に参加してもらうため、ある程度グループ化して参加しやすい人たちの参加しやすい時間を設定するのはどうか。

13	②参加しやすい環境づくり	無作為と言っても、地域を限定して、そこから無作為でもいいと思う。 また、20歳代から40歳代を対象とした会を開いてみるのもいいと思う。
14	②参加しやすい環境づくり	専門的な内容の会議でも、市民目線で取組んでもらえるとわかりやすくなるのではないか。
15	②参加しやすい環境づくり	自分の業務の行動計画の中で、どの時期にどういうことをやるということを落とし込んで、それを優先的に取組めば、その地域の実情もわかるし、地域の人との交流、コミュニケーションも進み、色々な意見が出てくるのではないか。
16	③市民意見の積極的な反映	応募者数、参加者数を増やす対策として、市内企業から代表として1人に参加をしてもらおうということもいいと思う。
17	③市民意見の積極的な反映	20歳代から40歳代の人から意見を集めるには学校や地元企業に適切な代表者を選出してもらい、会合、意見提出を依頼すると効果的かもしれない。
18	③市民意見の積極的な反映	書いてよかったという気持ちにさせる回答をしてもらえると、行政の人は自分の意見も読んで考えてくれているという話題にもなり、パブリックコメントの制度も広まるのではないか。
19	④その他	市内企業等についても、就業時間内に市民委員として活動する人を快く出せる、という意識改革も大事だと思う。